

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2		
年組	1年1組		教科書(発行所)	高等学校 新生物基礎(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	生物の特徴 遺伝子とDNA	生物にみられる共通性と多様性	○		○	学習の目標 社会人として身に付けておかなければならない基礎知識を身に付ける。観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。生物や環境、私たちの体のしくみに興味を持ち、生活との関わりを考える。	
		生命活動を支える代謝					
		代謝を進める酵素		○			
		光合成			○		
		呼吸		○			
5		(中間考査)		○	○		
		生物と遺伝子			○		
	DNAとゲノム			○			
	DNAの複製と分配		○				
	DNAの倍化				○		
6		DNAとタンパク質合成			○	授業の進め方	
	セントラルドグマ				○		
7		(期末考査)	○	○		授業は教科書とプリントを使って進める。必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。必要に応じて視聴覚教材も活用する。	
7	生体防御	遺伝子の発現と生命現象	○		○	学習の方法 授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。	
8・9		細胞と遺伝子の働き			○		
		細胞の分化とIPS細胞			○		
		肝臓のつくりとはたらき			○		
9		腎臓のつくりとはたらき			○		
		自律神経による調節		○			
		ホルモンによる調節			○		
		体温の調節		○			
		血糖値の調節			○		
10		免疫のシステム			○		
		自然免疫		○			
		獲得免疫			○		
	適応免疫①細胞性免疫			○			
11	適応免疫②体液性免疫			○			
	免疫とヒト		○				
12		医療と免疫			○	評価の観点 評価の方法<知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	(期末考査)		○	○			
12	生物の多様性と生態系	生態系	○		○	評価の方法 平常点はおもにプリントを評価する。特に気付いたこと・感想の欄への記入は重視される。定期考査70%、平常点30%で評価する。	
		植生と生態系			○		
1		森林の構造		○			
		植生の遷移		○			
		世界のバイオーム			○		
2		日本のバイオーム		○			
	生態系でのエネルギーの流れ			○			
	(学年末考査)		○	○			
	生態系のバランスを保つしくみ				○		
	復元力を超える人間の活動				○		
3		生物多様性の保全			○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2		
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	新編 化学基礎(数研出版)			
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目	
				知	思	態	
4	序章 化学と人間生活						<p>学習の目標</p> <p>化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。 自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。</p> <p>授業の進め方</p> <p>教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。 実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。</p> <p>学習の方法</p> <p>学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。 家庭では、ノート、問題集を活用し復習を重点的に行う。</p> <p>評価の観点</p> <p><知識・技能> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 自然の事物・事象に問題を見いだし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。</p> <p>評価の方法</p> <p>授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。</p>
	第1編 物質の構成と化学結合						
	第1章 物質の構成		1混合物と純物質 2物質とその成分 3物質の三態と熱運動	○ ○ ○	○ ○ ○		
5	第2章 物質の構成粒子		(中間考査) 1原子とその構造 2イオン 3周期表	○ ○ ○	○ ○ ○		
6	第3章 粒子の結合		1イオン結合とイオンからなる物質 2分子と共有結合 3共有結合結晶 4金属結合と金属	○ ○ ○	○ ○ ○		
7			(期末考査)	○	○		
7	第2編 物質の変化						
	第1章 物質質量と化学変化		1原子量・分子量・式量 2物質質量	○	○		
8・9			3溶液の濃度	○	○		
9			4化学反応式と物質質量	○	○		
10	第2章 酸と塩基の反応		1酸・塩基	○	○		
			2水の電離と水溶液のpH	○	○		
11			3中和反応と塩	○	○		
12			4中和滴定	○	○		
			(期末考査)	○	○		
12	第3章 酸化還元反応		1酸化と還元	○	○		
			2酸化剤と還元剤	○	○		
1			3金属の酸化還元反応	○	○		
			4酸化還元反応の利用	○	○		
2			(学年末考査)	○	○		
3	終章 化学が拓く世界						
【備考】							
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2		
年組	2年1組		教科書(発行所)	新編 化学基礎(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	1混合物と純物質 2物質とその成分 3物質の三態と熱運動	○	○	○	学習の目標 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。 自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。	
5	第2章 物質の構成粒子	1原子とその構造 2イオン 3周期表	○	○	○		
6	第3章 粒子の結合	1イオン結合とイオンからなる物質 2分子と共有結合 3共有結合結晶 4金属結合と金属	○	○	○		
7		(期末考査)	○	○	○		授業の進め方 教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。 実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。
7	第2編 物質の変化 第2章 物質量と化学変化	1原子量・分子量・式量 2物質量	○	○	○		学習の方法 学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。 家庭では、ノート、問題集を活用し復習を重点的に行う。
8・9		3溶液の濃度	○	○	○		
9		4化学反応式と物質量	○	○	○		
10	第2章 酸と塩基の反応	1酸・塩基	○	○	○		
11		2水の電離と水溶液のpH 3中和反応と塩	○	○	○		
12		4中和滴定 (期末考査)	○	○	○	評価の観点 <知識・技能> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 自然の事物・事象に問題を見いだし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。	
12	第3章 酸化還元反応	1酸化と還元	○	○	○	評価の方法 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。	
1		2酸化剤と還元剤	○	○	○		
2		3金属の酸化還元反応 4酸化還元反応の利用	○	○	○		
3	終章 化学が拓く世界	(学年末考査)	○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2		
年組	2年2組		教科書(発行所)	高等学校 新生物基礎(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		項目		
			知	思	態		
4	生物の特徴 遺伝子とDNA	生物にみられる共通性と多様性			○	学習の目標 観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 生物や環境、私たちの体のしくみに興味を持ち、生活との関わりを考える。	
5		生命活動を支える代謝			○		
		代謝を進める酵素			○		
6		光合成		○			○
		呼吸	(中間考査)	○	○		○
		生物と遺伝子		○	○		○
7		DNAとゲノム		○	○		○
	DNAの複製と分配		○	○	○		
7		DNAの倍化			○	授業の進め方 授業は教科書とプリントを使って進める。 必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。 必要に応じて視聴覚教材も活用する。	
8・9		DNAとタンパク質合成			○		
9	生体防御	セントラルドグマ	(期末考査)	○	○	学習の方法 授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。	
10		遺伝子の発現と生命現象		○			○
		細胞と遺伝子の働き		○			○
11		細胞の分化とIPS細胞		○			○
		肝臓のつくりとはたらき		○			○
12		腎臓のつくりとはたらき		○			○
12	自律神経による調節		○		○		
	ホルモンによる調節		○		○		
1	体温の調節		○		○	評価の観点 評価の方法<知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	12	血糖値の調節		○			○
2	自然免疫		○		○	評価の方法 平常点はおもにプリントを評価する。特に気付いたこと・感想の欄への記入は重視される。 定期考査70%、平常点30%で評価する。	
	獲得免疫		○		○		
3	適応免疫①細胞性免疫		○		○		
	適応免疫②体液性免疫		○		○		
3	免疫とヒト		○		○		
	医療と免疫	(期末考査)	○	○	○		
12	生物の多様性と生態系	生態系	○		○	評価の方法 平常点はおもにプリントを評価する。特に気付いたこと・感想の欄への記入は重視される。 定期考査70%、平常点30%で評価する。	
1		植生と生態系			○		
		森林の構造			○		
2		植生の遷移			○		
		世界のバイオーム			○		
3		日本のバイオーム			○		
		生態系でのエネルギーの流れ (学年末考査)			○		
3		生態系のバランスを保つしくみ			○		
		復元力を超える人間の活動 生物多様性の保全			○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2	
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	新編 物理基礎(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	運動の表し方	等速直線運動 等加速度直線運動 重力加速度	○	○	○	学習の目標 生活との関連を図りながら、身の回りの物理現象について理解し、科学的に探究する基本的な技能を身に付ける。見通しをもって実験や観察を行い、物理的に探究する資質と能力を身に付ける。 物体の運動とエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。
5	運動の法則	落体の運動 (中間考査) 力のはたらきとつり合い 運動の法則	○	○	○	
6	力学的エネルギー	運動方程式 運動方程式の応用 摩擦や空気抵抗を受ける運動 仕事	○	○	○	
7		(期末考査)	○	○	○	
7		運動エネルギー 位置エネルギー	○	○	○	
8・9	熱エネルギー	温度と熱 熱量の保存 熱力学第一法則 不可逆変化と熱機関	○	○	○	
9	波の性質	媒質の振動と波の表し方 重ね合せの原理 波の干渉	○	○	○	授業の進め方 教科書にある基本事項を一つずつ確認しながら授業を進める。特に大切な事柄については、実際に実験を行ない、考察を進める。さらに問題集等を使って、演習問題に取り組みながら理解を深める。
10	物質と電気抵抗	気柱の振動 電流とオームの法則 抵抗の接続	○	○	○	学習の方法 授業のノートは、板書したことだけでなく、自分で気付いたことや考えたこともメモをとるよう心がける。実験の考察や演習問題は必ず自分で考え、自分の言葉で説明できるようにする。家庭学習では、問題を自分で解くことが大切。間違いを怖れずに自分の力で取り組もうとすることが、必ず思考力となって身に付けられる。
11	電力と電力量	電力と電力量 電力と電力量 電磁波	○	○	○	評価の観点 <知識・技能> 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動やエネルギーについて基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 物体の運動やエネルギーに関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 物体の運動やエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
12		(期末考査)	○	○	○	評価の方法 平常点は、授業中の問いに対する答え方や課題の提出状況、実験の考察などをもとに評価する。 定期考査70%、平常点30%で評価する。
12						
1						
2						
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2		
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	生物基礎(東京書籍)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー	1生物の多様性 2生物の共通性 3細胞の特徴 1生体とATP 2生体内の化学反応 3呼吸と光合成 (中間考査)	○	○	○	学習の目標 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 授業の進め方 ・授業を通して身に付けた知識を、実験・観察を通して検証し、定着させる。	
5	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質	1生物と遺伝子 DNAの構造 3DNAの複製と分配 1タンパク質 2DNAとタンパク質の合成 3細胞分化と遺伝子 (期末考査)	○	○	○		
6			○	○	○		
7			○	○	○		
7	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達	1体内環境 2神経系による情報伝達 3ホルモンによる情報伝達 4血糖濃度の調節	○	○	○		・問題集を用いた演習で、理解の深化を図る。 学習の方法 授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。また、問題集を活用し、理解の深化を図る。実験・観察を通して、知識の検証を行う。そのため、日ごろから生物学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。 評価の観点
8・9	2章 免疫のはたらき	1免疫のしくみ 2免疫記憶 3免疫とさまざまな疾患	○	○	○		
9			○	○	○		
10	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 2章 生態系と生物の多様性	1植生とその環境 2植生の遷移 3遷移とバイオーム 1生態系における生物の多様性 2生態系における生物間の関係 3生態系と攪乱 4生態系の保全 (期末考査)	○	○	○		
11			○	○	○	○知識・技能 自然の事物・現象について概念や原則・法則など理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 ○思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 ○主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返りなど、科学的に探究しようとしている。	
12			○	○	○		
1			○	○	○		
2			○	○	○		
3			○	○	○	評価の方法 各考査、ノート提出、実験等のレポート、小テストの状況、授業態度を総合的に判断して評価を行う。	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	生物基礎(東京書籍)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性	1 多様性に見られる共通性		○	○	学習の目標 観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 生物や環境、私たちの体のしくみに興味を持ち、生活との関わりを考える。
5	2章 生命活動とエネルギー	2 生物の共通性としての細胞 1・2 エネルギーと代謝、酵素 (中間考査)	○	○	○	
6	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子	3 生体内におけるエネルギー変換 4 ミトコンドリアと葉緑体の起源 1 遺伝情報とDNA 2 DNAの構造 3 ゲノムと遺伝情報	○	○	○	
7		(期末考査)	○	○	○	
7	2章 遺伝情報の分配	1 細胞分裂とDNA 2 細胞周期とDNAの複製 3 遺伝情報の流れ	○	○	○	
8・9	3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境	1 体内環境の特徴 2 心臓と血液の循環	○	○	○	
9	2章 体内環境を維持するしくみ	3 体内環境を調節する器官 1 自律神経系による調節 2 内分泌系による調節	○	○	○	授業の進め方 授業は教科書とプリントを使って進める。 必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。 必要に応じて視聴覚教材も活用する。
10	3章 免疫	1 生体防御と免疫 2 自然免疫 3 適応免疫 4 免疫とヒト	○	○	○	
11		(期末考査)	○	○	○	
12			○	○	○	
						学習の方法 授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。
						評価の観点 評価の方法<知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
12	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移	1 植生とその環境 2 植生と遷移	○	○	○	評価の方法 平常点はおもにプリントを評価する。特に気付いたこと・感想の欄への記入は重視される。 定期考査70%、平常点30%で評価する。
1	2章 バイオームとその分布	1 気候とバイオーム 2 陸上のバイオーム	○	○	○	
2	3章 生態系とその保全	1 生態系とエネルギーの流れ 2 生態系における生物の多様性 (学年末考査)	○	○	○	
3		3 生態系のバランスと保全	○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2	
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	高等学校 地学基礎(第一学習社)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目
				知	思	態
4	第1章 地球のすがた	地球の形と大きさ	地球の形の形と大きさ	○	○	<p>学習の目標</p> <p>観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 地学や環境、私たちの体のしくみに興味を持ち、生活との関わりを考える。</p>
	第1節 地球の概観	地球の内部構造	地球の内部の動き	○	○	
5	第2節 プレートの運動	プレート分布と運動	プレートの境界	○	○	
		地殻の変動と地質構造	変成作用	○	○	
6	第2章 地球の活動	大地形の形成	地震の発生と分布	○	○	
7	第1節 地震	(中間考査)	(期末考査)	○	○	
7	第2節 火山活動	日本付近で発生する地震	火山の分布	○	○	<p>授業は教科書とプリントを使って進める。 必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。 必要に応じて視聴覚教材も活用する。</p>
8・9		火山の噴火	火山の地形	○	○	
9	第3章 大気と海洋	大気の大循環	火成岩の形成	○	○	
	第1節 地球のエネルギー収支	大気の大循環	大気の大循環	○	○	
10	第2節 大気と海水の運動	対流圏における水の変化	地球を出入りするエネルギー	○	○	
11		エネルギー収支の緯度分布	風	○	○	
12		海洋の構造	エルニーニョ現象とラニーニャ現象	○	○	<p>学習の方法</p> <p>授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。</p>
		(期末考査)	(期末考査)	○	○	
				○	○	
				○	○	
				○	○	
				○	○	
				○	○	<p>評価の観点</p> <p>評価の方法<知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>
12	第4章宇宙と地球	宇宙の探求	宇宙のはじまり	○	○	
	第1節 宇宙と太陽の誕生	太陽	太陽	○	○	
1	第2節 太陽系と地球の誕生	太陽系の誕生	太陽系の惑星	○	○	
	第5章生物の変遷と地球環境	地層の形成	地層の形成	○	○	
2	第1節 地層と化石	堆積岩	化石と地質時代	○	○	
	第2節 地球と生物の変遷	先カンブリア時代	(学年末考査)	○	○	
3	第6章地球の環境	中生代 新生代	気候変動 地球温暖化	○	○	
		気象災害 地震災害 防災		○	○	
<p>【備考】</p> <p>※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。</p>						
						<p>評価の方法</p> <p>平常点はおもにプリントを評価する。特に気付いたこと・感想の欄への記入は重視される。定期考査70%、平常点30%で評価する。</p>

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学	単位数	2	
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	化学(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造	1結晶とアモルファス 2金属結合 3イオン結晶 4分子間力と分子結晶 5共有結合の結晶	○	○	○	学習の目標 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。 自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。 授業の進め方 教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。 実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。
5	第2章 物質の状態変化	(中間考査) 1粒子の熱運動 2三態の変化とエネルギー 3気液平衡と蒸気圧	○	○	○	
6	第3章 気体	1気体の体積 2気体の状態方程式 3混合気体の圧力 4実在気体 4実在気体	○	○	○	
7		(期末考査)	○	○	○	
7	第4章 溶液	1溶解とそのしくみ 2溶解度 3希薄溶液の性質 4コロイド溶液	○	○	○	
8・9	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	1化学反応と熱 2ヘスの法則 3化学反応と光	○	○	○	
9	第2章 電池と電気分解	1電池 2電気分解	○	○	○	
10	第3章 化学反応の速さ	1化学反応の速さ 2反応条件と反応速度 3化学反応のしくみ	○	○	○	
11	第4章 化学平衡	1可逆反応と化学平衡 2平衡状態の変化 3電解質水溶液の化学平衡	○	○	○	
12		(期末考査)	○	○	○	評価の観点 <知識・技能> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 自然の事物・事象に問題を見いだし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。
12	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	1元素の分類と周期表 2水素・貴ガス元素 3ハロゲン 4酸素・硫黄 5窒素・リン 6炭素・ケイ素	○	○	○	評価の方法 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。
1	第2章 金属元素(I)	1アルカリ金属 2アルカリ土類 3アルミニウム・スズ・鉛	○	○	○	
2	第3章 金属元素(II)	1遷移元素の特徴 2鉄 3銅 4銀・金 5亜鉛 6クロム・マンガン 7その他の遷移金属	○	○	○	
3		(学年末考査) 8金属イオンの分離・確認 章末問題	○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	物理	単位数	1		
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	高等学校 物理(啓林館)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4						学習の目標	
5						生活との関連を図りながら、身の回りの物理現象について理解し、科学的に探究する基本的な技能を身に付ける。見通しをもって実験や観察を行い、物理的に探究する資質と能力を身に付ける。	
6						物体の運動とエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。	
7						授業の進め方	
7						教科書にある基本事項を一つずつ確認しながら授業を進める。特に大切な事柄については、実際に実験を行ない、考察を進める。さらに問題集等を使って、演習問題に取り組みながら理解を深める。	
8・9						学習の方法	
9							授業のノートは、板書したことだけでなく、自分で気付いたことや考えたこともメモをとるよう心がける。実験の考察や演習問題は必ず自分で考え、自分の言葉で説明できるようにする。家庭学習では、問題を自分で解くことが大切。間違いを怖れずに自分の力で取り組もうとすることが、必ず思考力となって身に付けられる。
10							評価の観点
11							
12	運動と力	放物運動 剛体のつり合い					
1	熱と分子運動	運動量と力積 運動量の保存 円運動 単振動 万有引力					
2		気体分子の運動 熱力学第一法則 (学年末考査)					
3		気体の状態変化と熱・仕事					
【備考】							
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	3		
年組	3年1組		教科書(発行所)	高等学校 科学と人間生活(第一学習社)			
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点			項目
				知	思	態	
4	物質の科学 微生物の科学	プラスチックの特徴 プラスチックの分類と用途 金属とその精錬 金属と人間生活 資源の再利用 身近な微生物 微生物の発見 生態系内の微生物 " 部生物の利用 食品と微生物	(中間考査)	○	○		学習の目標 社会人として知っておかなければならない科学に関する基礎知識を身に付ける。観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。科学技術に興味を持ち、私たちの生活との関わりを理解する。
5				○	○	○	
6				○	○	○	
7				○	○	○	
				○	○	○	
				○	○	○	
			(期末考査)	○	○		授業の進め方 授業は教科書とプリントを使って進める。必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。必要に応じて視聴覚教材も活用する。
7	光の科学 自然環境と自然災害 課題研究	医薬品と微生物 微生物利用の広がり 光の発生と速さ 光の反射・屈折 光の分散 光の散乱 電磁波の種類とその利用 日本列島の成り立ち 火山活動と地表の変化 火山災害と防災 地震活動と地表の変化 地震活動と防災 水のはたらきと地表の変化 気象災害と防災 課題の設定と探究計画の立案 研究の実施	(期末考査)	○			学習の方法 授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。
8・9				○	○	○	
9				○	○	○	
10				○	○	○	
11				○	○	○	
12				○	○	○	
			(期末考査)	○	○		評価の観点 <知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、自然と科学技術について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 科学と人間生活との関わりについて問題を見出し、見直しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に取り組む態度> 人間生活の中での科学の役割や課題について主体的に関わりをもち、科学的に探究しようとしている。
12	研究の実施 " " " 研究成果の発表 報告書の作成	(学年末考査)	○	○	○	評価の方法 定期考査だけでなく、課題の提出状況、実験観察の記録や考察などをもとに、3つの観点について100点満点で点数化する。それらを総合的に評価して成績とする。	
1			○	○	○		
2			○	○	○		
3			○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2		
年組	3年2組		教科書(発行所)	高等学校 科学と人間生活(第一学習社)			
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点			項目
				知	思	態	
4	序章 科学技術の発展	エネルギー伝達技術の発達				○	学習の目標 日常生活や社会との関連を図りながら科学や地学への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につける。
5	第IV章 地球や宇宙の科学	エネルギー資源の活用と交通手段		○		○	
		医療技術の発達 (中間考査)		○	○	○	
		第一節 自然景観と自然災害		○		○	
		日本列島の成り立ち		○		○	
6		火山活動と地表の変化		○		○	
7		日本の活火山 (期末考査)		○	○	○	
							授業の進め方
							授業を通して身に付けた知識を、実験を通して検証し、定着させる。
7		火山活動と防災				○	学習の方法 授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。問題集を活用し、理解の深化を図る。実験を通して、知識の検証を行う。日ごろから科学・地学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。
8・9		地震活動と地表の変化		○		○	
9		地震災害と防災				○	
		水の働きと地表の変化		○		○	
		気象災害と防災		○		○	
10		第2節 太陽と地球		○		○	
		太陽と太陽系		○		○	
		太陽系を構成する天体		○		○	
11		太陽系の天体		○		○	
12		(期末考査)		○	○	○	
							評価の観点
							○関心・意欲・態度 ・自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。 ○思考・判断・表現 ・自然の事物・事象に問題を見いだし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 ○観察実験の技能 ・観察・実験を行い、基本的操作を習得するとともに、結果をまとめ科学的考察ができる。 ○知識・理解 ・自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
12		太陽と人間生活				○	評価の方法 ・各考査、ノートの提出、実験レポート、小テストの合格状況、授業態度を総合的に判断して評価を行う。
1		天体の働き		○		○	
		太陽と月の働き		○		○	
		(学年末考査)		○	○	○	
2							
3							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	理科探究	単位数	2
年組	3年3組		教科書(発行所)	生物基礎(東京書籍)／高等学校 地学基礎(第一学習社)	
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点	
				知	思 態
4	活動する地球	地球の形と大きさ	(中間考査)	○	○
	生物の特徴	プレートの運動		○	○
5	宇宙における地球	生物の多様性と共通性		○	○
		エネルギーと代謝		○	○
		光合成と呼吸		○	○
6	遺伝子	宇宙の広がりと銀河		○	○
		太陽系の構造		○	○
		生命の星・地球		○	○
		遺伝情報とDNA		○	○
7		遺伝情報の発現		○	○
		遺伝情報の分配	○	○	
			(期末考査)	○	○
7	火山活動と地震	火山の分布	(期末考査)	○	○
		火山の噴火と火成岩		○	○
8・9	生物の体内環境	地震が発生するしくみ		○	○
		体内環境としての体液		○	○
9		腎臓と肝臓による調節		○	○
		神経とホルモンのはたらき		○	○
	大気と海洋	免疫		○	○
		大気の大循環		○	○
10	生物の多様性	地球の熱収支		○	○
		大気の大循環		○	○
		植生とその成り立ち		○	○
11	移り変わる地球	植生の遷移		○	○
		気候とバイオーム	○	○	
		地球の誕生	○	○	
12		先カンブリア時代	○	○	
		古生代	○	○	
		中生代	○	○	
			(期末考査)	○	○
12	生態系	新生代	(学年末考査)	○	○
		生態系とその成り立ち		○	○
		物質循環とエネルギーの流れ		○	○
1	地球の環境	生態系のバランスと保全		○	○
		自然災害と気候変動		○	○
		地球の環境を守るために		○	○
2				○	○
				○	○
3				○	○
				○	○
				○	○
				(学年末考査)	○
<p>＜知識・技能＞ 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や地学について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。</p> <p>＜思考力・判断力・表現力＞ 生物と地学に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析、解釈して表現する能力を身に付けている。</p> <p>＜主体的に学習に取り組む態度＞ 生物と地学に関する自然現象や科学技術に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>					
<p>学習の目標</p> <p>観察した事実や実験データなどから考えることを通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 生物基礎や地学基礎で学んだ内容をより深く理解し、生活との関わりの中で考える力を養う。 自らの考えを文章などにまとめ、表現できる能力を身に付ける。</p>					
<p>授業の進め方</p> <p>2年次の生物基礎と地学基礎の復習を行いながら、さまざまな学習課題に自ら取り組むアクティブラーニングを中心として学習を進める。 必要に応じて視聴覚教材やICTを活用する。</p>					
<p>学習の方法</p> <p>授業では自分で問題を解きながら、自分の考えを説明することが中心となる。問いや考察については必ず自分で考え、気づいたことや感想は自分の言葉で書くようにする。 家庭学習では教科書、問題集、プリント等を何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。</p>					
<p>評価の観点</p>					
<p>評価の方法</p> <p>定期考査だけでなく、課題の提出状況、実験観察の記録や考察などをもとに、3つの観点について100点満点で点数化する。それらを総合的に評価して成績とする。</p>					
<p>【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。</p>					

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	理科探究	単位数	2		
年組	3年4組文系		教科書(発行所)	地学学習帳(愛媛県高等学校教育研究会理科部会)			
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点			項目
				知	思	態	
4 5 6 7	地学基礎実習		1 罫線の長さの比較			○	学習の目標 日常生活や社会との関連を図りながら生物や地学への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につける。
	生物基礎の復習		1 生物の多様性と共通性①			○	
	地学基礎実習		2 地震波と地球の内部構造	○			
	生物基礎の復習		2 生物の多様性と共通性②			○	
	地学基礎実習		3 大陸移動			○	
	地学基礎実習		4 海洋底拡大			○	
	生物基礎の復習		3 エネルギーと代謝①			○	
8 9 10 11	地学基礎実習		5 太平洋プレートの移動	○			授業の進め方 授業を通して身に付けた知識を、実験を通して検証し、定着させる。
	生物基礎の復習		4 エネルギーと代謝②			○	
	地学基礎実習		6 震央と震源の深さの決定			○	
	生物基礎の復習		5 抽出DNAの性質			○	
7 8・9 9 10 11 12	地学基礎実習		7 兵庫県南部地震の進捗分布			○	学習の方法 授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。問題集を活用し、理解の深化を図る。実験を通して、知識の検証を行う。日ごろから生物・地学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。
	生物基礎の復習		6 タンパク質の性質			○	
	地学基礎実習		8 火山灰の観察			○	
	生物基礎の復習		7 遺伝子とゲノム			○	
	地学基礎実習		9 火成岩の分類①			○	
	生物基礎の復習		8 血球の観察			○	
	地学基礎実習		10 火成岩の分類②			○	
	生物基礎の復習		9 腎臓と肝臓			○	
	地学基礎実習		11 結晶の生成過程の観察			○	
	生物基礎の復習		10 免疫の仕組み			○	
	地学基礎実習		12 飽和水蒸気圧			○	
	生物基礎の復習		11 気候とバイオーム			○	
	地学基礎実習		13 太陽放射熱の測定			○	
	生物基礎の復習		12 遷移			○	
	地学基礎実習		14 宇宙の始まり			○	
生物基礎の復習		13 生体系内におけるエネルギーの流れ			○		
地学基礎実習		15 宇宙の広がり			○		
12 1 2 3	生物基礎の復習		問題演習			○	評価の観点 ○ 関心・意欲・態度 ・自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。 ○ 思考・判断・表現 ・自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 ○ 観察実験の技能 ・観察・実験を行い、基本的操作を習得するとともに、結果をまとめ科学的考察ができる。 ○ 知識・理解 ・自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
	地学基礎実習		問題演習			○	
	生物基礎の復習		問題演習			○	
	地学基礎実習		問題演習			○	
	生物基礎の復習		問題演習			○	
	地学基礎実習		問題演習 (学年末考査)			○	
						評価の方法 ・各考査、ノートの提出、実験レポート、小テストの合格状況、授業態度を総合的に判断して評価を行う。	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物	単位数	5	
年組	3年4組 理系		教科書(発行所)	高等学校 生物(啓林館)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第3章 進化のしくみ	1 突然変異と進化 2 進化の要因	○	○	○	学習の目標
	第4章 生物の系統	1 生物の分離と系統 2 3ドメイン説と人類の進化	○	○	○	
5	第5章 生命と物質	1 物質と細胞 (中間考査)	○	○	○	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
	第6章 代謝	1 代謝とエネルギー 2 呼吸 呼吸気質と呼吸商	○	○	○	
6	第7章 遺伝情報の複製	3 光合成	○	○	○	授業の進め方
7		1 遺伝子DNA (期末考査)	○	○	○	
7	8・9	2 遺伝子の発現 ”	○	○	○	・授業を通して身に付けた知識を、実験・観察を通して検証し、定着させる。 ・問題集を用いた演習で、理解の深化を図る。
9		3 遺伝子の発現調節 1 動物の配偶子形成と受精 ”	○	○	○	
10	第9章 バイオテクノロジー	2 発生初期の過程 3 発生と遺伝子の発現	○	○	○	学習の方法
11	第10章 刺激の受容と反応	1 遺伝子を扱った技術 (中間考査)	○	○	○	
11	第11章 動物の行動	1 刺激の受容と神経 2 神経系 3 効果器	○	○	○	授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。また、問題集を活用し、理解の深化を図る。実験・観察を通して、知識の検証を行う。そのため、日ごろから生物学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。
12	第12章 植物の環境応答	1 生得的行動 2 学習	○	○	○	
12	12	1 植物の生殖と発生 2 発芽と成長 3 植物ホルモン (期末考査)	○	○	○	評価の観点
1		第12章 個体群と生物群集	1 個体群とその変動 ” ”	○	○	
2	1	2 種内関係と種間関係	○	○	○	○知識・技能 自然の事物・現象について概念や原則・法則など理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 ○思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 ○主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
3		第14章 生態系	1 生態系と物質生産 2 生態系と人間生活 (学年末考査)	○	○	
2	2		○	○	○	評価の方法
3			○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	物理	単位数	5	
年組	3年4組理系		教科書(発行所)	高等学校 物理(啓林館)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	様々な運動	円運動と単振動	○	○	○	学習の目標 物理学の基本的な概念や原理・法則に関する理解を深め、物理的に探究する技能を身に付ける。 見通しをもって実験や観察を行い、物理的に探究する資質と能力を身に付ける。 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。
5	熱と分子運動	万有引力 気体分子の運動 状態変化と熱・仕事 熱機関の効率 (中間考査)	○	○	○	
6	波動と音・光	波の性質 音の性質とドップラー効果 光の性質 レンズの球面鏡 光の回折と干渉	○	○	○	
7	電界と電位	静電気と電界 (期末考査)	○	○	○	
7	電流	電位 コンデンサー コンデンサーの接続 電子と電流 直流回路 半導体	○	○	○	
9	電流と磁界	電流がつくる磁界 電流が磁界から受ける力 ローレンツ力	○	○	○	
10	電磁誘導	電磁誘導の法則 磁界中を運動する導体 自己誘導と相互誘導 交流	○	○	○	授業の進め方 教科書にある基本事項を一つずつ確認しながら、さらに考察をより深めて授業を進める。特に大切な事柄については、実際に実験を行ったり、専門家によるデータをもとに考察を進める。さらに問題集や過去の入試問題等を使って、演習問題に取り組みながら理解を深める。
11	電子と光	電気振動と電磁波 電子の質量と電荷 光の粒子性	○	○	○	
12		X線 (期末考査)	○	○	○	
12		粒子の波動性と原子モデル	○	○	○	学習の方法 授業のノートは、板書したことだけでなく、自分で気付いたことや考えたことは全て書き記すよう心がける。実験の考察や演習問題は必ず自分で考え、自分の言葉で説明できるようにする。家庭学習では問題を自分で解くことはもちろん、答を出すだけでなく、さらに考察を深めようとする態度が、思考力をより高めさせる。
1		原子核と放射線 核反応 核エネルギー 素粒子と宇宙 (学年末考査)	○	○	○	
2			○	○	○	
3			○	○	○	
評価の観点 <知識・技能> 日常生活や社会との関連を図りながら、物理的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、物理的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 物理的な事物・現象に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験、データ収集などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。						
評価の方法 定期考査だけでなく、課題の提出状況、実験観察の記録や考察などをもとに、3つの観点について100点満点で点数化する。それらを総合的に評価して成績とする。						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学	単位数	3		
年組	3年4組理系		教科書(発行所)	化学(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第2章 金属元素(I)	1アルカリ金属 2アルカリ土類 3アルミニウム・スズ・鉛	○			学習の目標 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。 自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。	
5	第3章 金属元素(II)	1遷移元素の特徴 2鉄 3銅 4銀・金 5亜鉛 6クロム・マンガン 8金属イオンの分離・確認 (中間考査)	○	○			
6	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物	1有機化合物の特徴と分類 2有機化合物の分析 1飽和炭化水素 2不飽和炭化水素 1アルコールとエーテル 2アルデヒドとケトン 3カルボン酸 4エステルと油脂 (期末考査)	○	○	○		授業の進め方
7			○	○	○		教科書・図説・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。 実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。
7	第4章 芳香族化合物	1芳香族炭化水素 2フェノール類と芳香族カルボン酸 3芳香族アミンとアゾ化合物 4有機化合物の分類	○				学習の方法 学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。 家庭では、問題集を徹底的に活用し学力を身に付ける。
8・9	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	1高分子化合物の構造と性質 1糖類 2アミノ酸とタンパク質 3核酸	○	○	○		
9			○				
10	第3章 合成高分子化合物	1合成繊維 2合成樹脂 3ゴム 演習問題	○	○	○		
11			○	○	○		
12		(期末考査)	○	○	○	評価の観点	
12			○			< 関心・意欲・態度 > 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。 < 思考・判断・表現 > 自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 < 観察実験の技能 > 観察・実験を行い、基本的操作を習得するとともに、結果をまとめ科学的考察ができる。 < 知識・理解 > 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
1		(学年末考査)	○	○	○	評価の方法 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。	
2			○	○	○		
3			○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							